Compass
English Communication

Compassを使った生徒の発話を促す授業

河上昭恵

Compass English Communication のテキストは生徒が主体的に動くことができる活動を取り入れやすいよう工夫されています。教科書の構成が見開きで見やすく，生徒の興味，関心を引くような写真や絵が数多く掲載されています。それらの視覚材料を活用することで，本文の内容理解および定着活動を，英語のみで進めていくことができます。また，本文対向ページの Answer it! で英文の内容理解を深め，Focus on it! 等では文法項目を理解し，課末の Enjoy communication では自己表現活動を行うことができます。その結果，４技能を取り入れた生徒の活動量の多い授業を作っていくことができます。私が授業を作る際に最も心がけていることは，まさに生徒の活動時間を多くし，主体的な学びを促すことです。そのために行っている，帯活動，本文理解のためのオーラル・インタラクションとプレゼンテーション活動，そしてタスク活動について，１つの課を取り上げ実践事例をご紹介します。

題材　Lesson 3　Kimonos are Cool!

授業の流れ

導入（語彙定着のための帯活動）（５～10分）
↓
本文理解のためのオーラル・インタラクション（10～15分）
↓
本文内容の解説（10分）
↓
音読（10分）
↓
プレゼンテーション（10～15分）

導入（語彙定着のための帯活動）

Lesson 3 は着物文化をきっかけに日本の伝統・文化について興味，関心を持ち，日本文化を紹介することを目的としています。教科書には着物の写真や夏祭りのイラストなどが載っています。そこで，導入活動として日本の伝統・文化について紹介する活動を行いました。

まずは語彙の定着活動として，着物の柄に使われる朝顔などの花，夏祭り，屋台，うちわやお面などを英語でどのように表現すればよいのかを知るために，カルタ取りのような活動を行いました。生徒を４～５人のグループに分け，それぞれの机上にイラストと英単語（例えば朝顔の絵と morning glory という英単語）が書いてあるカードを置き，英語の説明を聞いて答えとなるカードを取っていくという活動です。単語の種類やヒントの難易度を上げながら，授業の最初の導入活動として毎回10分程度行いました。

語彙が定着した後は，Enjoy communication の自己表現活動を行いました。生徒たち自身が日本の伝統・文化について調べてクラス全体に英語で説明し，聞いた人は何の説明かを当てて答えていくというクイズ形式の活動です。毎回数名ずつ何回かに分けて行いました。

これらの活動を通して，自分の身の回りにある日本の伝統・文化への興味，関心を高め，語彙を増やし，説明方法についての知識を増やすことができます。

本文理解のためのオーラル・インタラクションとプレゼンテーション活動

導入の後は本文のオーラル・インタラクションを行います。絵やカードを黒板に貼りながら，本文の内容を英語で説明します。その際には新出単語を取り入れたり，Answer it!の Q and A を中心に，生徒に質問をしたりして，内容が理解できているのかを確認しています。また，定着させたい単語や文法事項の入った文を何度も繰り返し発話させています。生徒にはこのオーラル・インタラクションの活動で本文の流れをしっかりと理解し，口頭練習を十分にしておくと，後で行うプレゼンテーションがうまくできるようになることを理解してもらっています。

そして，毎回授業の最後に，学習した内容のリテリングをペアによるプレゼンテーション活動として行っています。黒板に貼ってある絵や単語を参考に，学習した内容の概略をクラス全体の前で発表してもらいます。ペアでプレゼンテーションをする際は，自分たちで要約文を作成し，原稿は持たずに行うことをルールとしています。

タスク活動

タスクによる自己表現活動は１レッスンごとに１回程度行っています。その際に有効なのが，Enjoy communication です。Lesson 3 は海外からの留学生に話すつもりで，日本文化を紹介してみようという内容が設定されています。この活動自体がタスクの活動になっているのでそのまま行うことができます。今回はより生徒にとって身近な活動にするために，実際に本校に勤務している外国人講師に，日本の伝統や文化を感じてもらえるような，学校の近くにある観光スポットを紹介しましょう，というテーマを設定しました。４～５名のグループに分かれて，何について紹介するのかを決めるために英語による話し合いを行いました。

話し合いを進める際には，司会，書記，発表者等あらかじめ役割を分担し，全員から意見とその理由を聞いて話し合いを進めるように指示をしています。

話し合いの後は絵や写真を用意してのプレゼンテーション活動を行います。プレゼンテーションは実際に外国人講師に聞いていただき，一番行きたいと思った場所はどこなのかを含め，講評をしていただきました。

事前に帯活動で語彙の定着が図れているため，生徒も英語による話し合いを進めることができます。また，毎回の授業でプレゼンテーション活動（リテリング）を行うことで，必要な表現方法も定着しているため，同じようなテーマの話題についてその場で話す内容のタスクを入れても，英語のみの使用で行うことができます。そして，身近な人や地域を対象にすることで，より具体的なイメージを持って，自分が話したいことを話す活動に結び付けていくことができます。

生徒たちの反応

授業後にこれらの活動についてのアンケートを行いました。帯活動，本文理解のためのオーラル・インタラクションとプレゼンテーション活動，タスク活動については，８割近くの生徒が肯定的な評価をしています。生徒の感想は，日本の伝統・文化を通して英語を学べて楽しかったしわかりやすかった，普段から身近にあるものを話すのがこんなに難しいとは思わなかったけれど，自分で考える力がついた，英文を読んだり，自分で文章を考えたり，発表したりして英語を使うことが楽しかった，などです。

生徒たちは教科書で学んだことを題材にしながら，身近なものについての語彙をさらに増やしたり，自分の意見や考えを表現することができたことで，学習意欲が高まり，楽しみながら英語を学んでいます。以上が私の実践事例です。ご参考になれば幸いです。

（かわかみ あきえ・東京都立葛飾総合高等学校教諭）